



第134号 (季刊)
令和2年4月
田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>



新型コロナウイルスから思うこと……

中国の武漢で発生した新型コロナウイルスの罹患に関することが此処のところ毎日毎日トップニュースで報道されている。新型コロナウイルスは、当初は、持病をもった高齢者が罹患し肺炎を起こした場合死に至る可能性が有り、子供は罹らないともいわれていた。感染力もインフルエンザほど強くないとの見解である。新種のコロナウイルスのため、まだ特效薬はなく陽性の患者に対しても治療は対象療法しかないようです。

中国まで特別チャーター機で迎えに行き日本人希望者を連れて帰り、特別に用意した場所で隔離治療を行うさまをリアルタイムにテレビで見ていて政府の存在の偉大さを垣間見た気がしました。クルーズ船ダイヤモンドプリンセスの対処にしても、国内にウイルスを入れない策を一生懸命しているのだと思いますが、加藤厚労大臣が非常に頼もしく思えました。日に日にウイルスが蔓延し南極大陸以外の全世界に広まったとの報道もあります。北海道で子供の感染者がでた報道があり、安倍首相が全国の小中高校支援学校の休校を発表しましたが、小学低学年の保護者（共働き家庭）にとっては新たに別問題が生じているようにみえます。目に見えない新型コロナウイルスだけにこの先どういう展開になっていくのか不安が膨らんでいくばかりで落ち着かない。見たくないと思っていた時もあったが、最近は見ないと生きていけない必須のニュースとなり、これにクギ

田中野田町内会副会長 中尾 三千義
け状態となっている。早く感染ピークが過ぎ終息をむかえる日が来ればいいなと願う毎日ですが、現代の医学を信じて人類の英知に期待して待つしかないのかもしれない。この新聞が皆様の目に触れるころ、そのような状態になっていれないと願うばかりです。感染対象年齢のまっただ中にいる私としては外出時のマスクの着用と帰宅後の手洗いとうがいの励行を心がけることで、自身のウイルス感染防御とそれに伴う家族の安心の確保を心掛けるようにして過ごしている毎日です。(3月9日記)

新型コロナウイルスについて書かせてもらいましたが、一方で、もっと身近にもっと真剣に考えておかねばならない事があります。昨年4月のふれあい新聞(130号)で和気町内会長が書いておられる町内会防災会の機能の活性化についてです。2年前の西日本豪雨が発生したときは真備町他、久米、今保で大きな被害がありました。いつ起きるかわからない自然災害についての常日頃の備えとして学習会や防災訓練が大変重要なこととなってきます。日頃からの心つもりが大事であると改めて感じています。

新年度から、自助、共助の精神のもと、防災班長の新設や、防災機物の設置、訓練等をもって、防災会機能の強化充実を進めていきたいと思っております。どうかご協力、ご理解のほど、よろしくお願いたします。

